

宮城 社会

## <もう一度会いたい> 何で先に逝ったんだ

◎ (8) 不意にこみ上げ 涙

涙で目が曇らなかつた日を思い出せない。

宮城県石巻市の今野浩行さん(53)は震災で長女麻里さん=当時(18)=、次女理加さん=同(16)=、長男大輔君=同(12)=を亡くした。

人生これからという時に世を去った不遇を哀れむ。

子を守れなかつた無力を恥じる。

頬がぬれる。

子のいなくなつた人生を送る意味を見いだせない。

「死にたい」

夫がそう口走つていたのを妻のひとみさん(45)は何度か耳にしている。

針岡橋に足が向く。

欄干からのぞき込む。

津波の遡上(そじょう)で川が氾濫し、命を奪つた。

引き込まれそうだ。身を投げる衝動に駆られる。

<酒に逃げる>

家を流失し、仮住まいに居を求めた。

初日の晩、ひとみさんに鍋をリクエストした。

家族そろって鍋好きで何かというとなんかにつついてた。

寄せ鍋が用意された。

子の取り鉢も配膳されたのを見たら、たまらず涙があふれた。

部屋には、子の写真をありったけ飾つた。どこを向いても目に入るように。

子と目が合う。

鼻の付け根がツンとくる。

酒に逃げた。意識が混濁し、悲嘆から解放される。

こたつで寝入り、朝を迎える。

酔いが覚めたら現実を引き戻される。それが嫌でまた酒に手を伸ばした。

酒浸りで血圧が跳ね上がった。上で200を超す。血糖値もHbA1cが10%をオーバーした。6%台後半で糖尿病と言われる。

ドクターストップが掛かった。

「先生、糖質ゼロのやつでは駄目ですか」

医師は返事をしなかつた。

<男のくせに>

震災遺族として中国地方に講演に行く機会があつた。

広島原爆ドームに寄る。

長男の大輔君が小5の学習発表会で「はだしのゲン」のゲンの弟を演じた記憶がよみがえり、目頭が熱くなつた。

涙は枯れることを知らない。泣きはらし、泣き疲れ、泣き明かしても尽きずにこみ上げる。

不意に涙ぐむことがある。スーパーで買い物をしている時とか。髪を切っている時とか。子とは無関係の何の脈絡のない状況でウツとくる。

ひとみさんには「男のくせに」と言われる。

多分、お前より芯が弱い。

泣いてばかりいる。

遺品を手にしても。

子と遊んだ公園を通り掛かつて。

いわさきちひろの絵を眺めて。



遺品を取める棚を見上げる。ビールに手が伸びる

拡大写真

テレビの「はじめてのおつかい」を見ても。

何で親より先に逝ったんだ？

死ぬ順番を変えては駄目だ。

2015年12月10日木曜日